

令和3年10月版

那覇港管理組合の取り組み (物流)



Naha Port Authority

TEL : 098-868-2582 (みなと振興課)

E-mail : kumiai@nahaport.jp

<http://www.nahaport.jp/>

那覇港管理組合 企画建設部 みなと振興課

那覇港の全景

陸域:約600ha 海域:約3,200ha



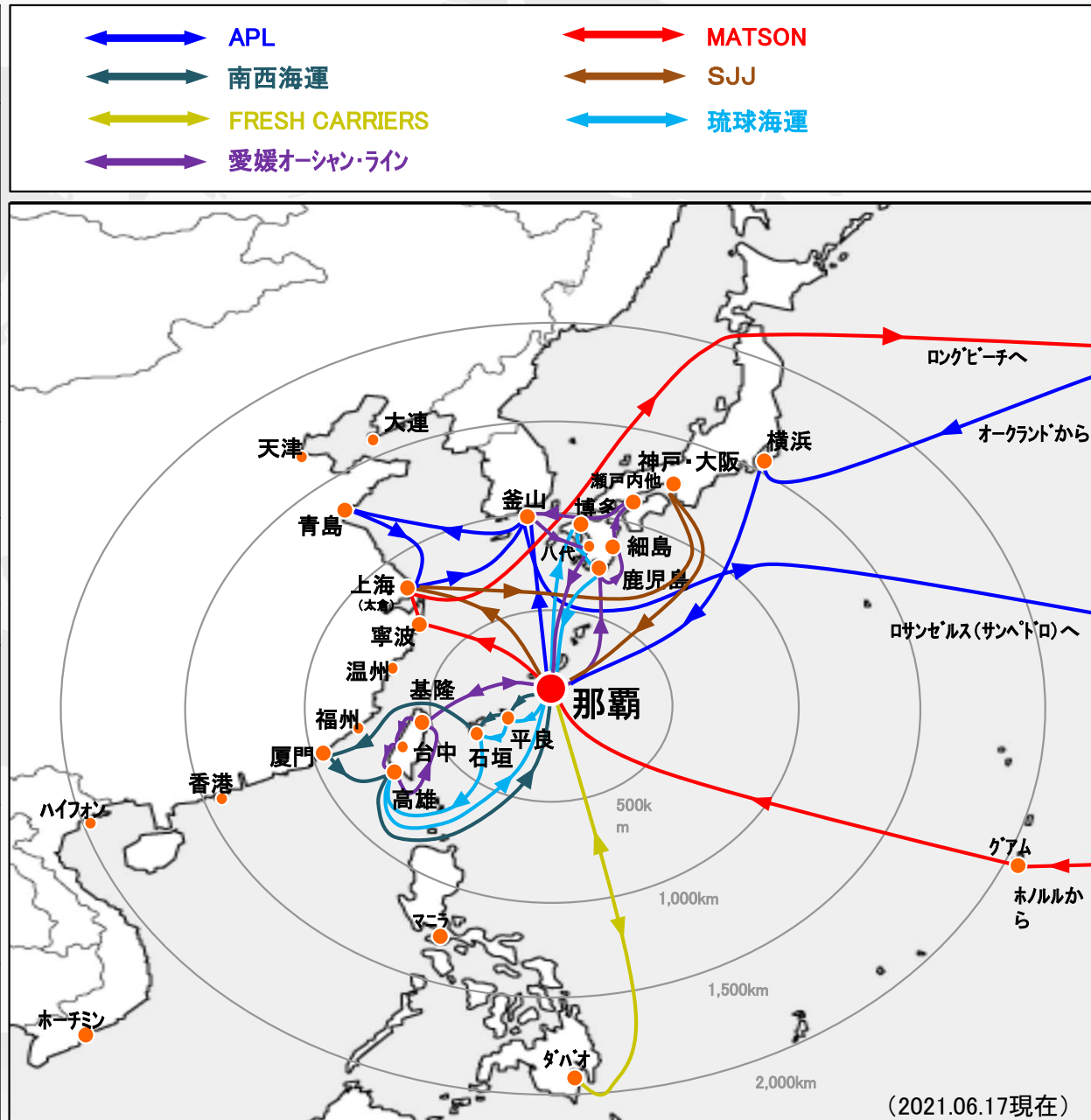
国際流通港湾としての位置づけ

- **県内重要港湾6港**の取扱貨物量(公共貨物)のうち、**那覇港**が占める割合は、内国貿易が**約8割**、外国貿易が**約9割**
- **那覇港と那覇空港の取扱貨物量**で、**那覇港**が占める割合は、**約99%** (2020年速報値)
- 外貿・内貿コンテナの総取扱量は、607,372TEUであり、**我が国第7位** (2020年速報値)
- 外貿コンテナ取扱量は、85,178TEUであり、**我が国第16位** (2020年速報値)
- 内貿コンテナ取扱量は、522,195TEUであり、**我が国第2位** (2020年速報値)

那覇港の定期航路(国外)

・外貿定期航路は、台湾、北米、中国、韓国、フィリピンを結ぶコンテナ航路が就航（7航路）

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※()は不定港	船名	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日							船社	
							月	火	水	木	金	土	日		
北米	ロサンゼルス(サンパドロ)ーオークランドー横浜ー那覇ー釜山ー青島ー上海ー釜山ーロサンゼルス(サンパドロ)	PRESIDENT KENNEY他	フルコン	1/週	新港10	13D							●		APL
	ロングビーチーホノルルーアブラクグアムー那覇ー寧波ー上海ーロングビーチ	MAUNAWILI他	フルコン	1/週	新港10	36H								●	MATSON
中国	上海ー大阪ー神戸ー那覇ー上海	MILD JAZZ他	フルコン	1/週	新港9	96H								●	SJJ
アジア	ダバオ<フィリピン>ー那覇ー(博多)ー(神戸)ーダバオ<フィリピン>	LADYROSEBAY	冷凍コンテナ	1/2週	新港9	72H							●		FRESH CARRIERS
台湾・東南アジア	※先島航路の延長 那覇ー平良ー石垣ー高雄ー那覇ー博多ー鹿児島ー那覇	みやらびII	RORO船	1/週	新港7・9	36H								●	琉球海運
	※先島航路の延長 那覇ー平良ー石垣ー廈門ー高雄ー那覇ー平良ー石垣ー那覇	せつ丸	一般貨物船	1/週	新港1・10	93H								●	南西海運
	那覇ー志布志ー細島ー大分ー広島ー松山ー門司ー釜山ー八代ー那覇ー基隆ー台中ー高雄ー基隆ー那覇	REFLECTION他	フルコン	2/週	新港9	2D								●	愛媛オーシャン・ライン



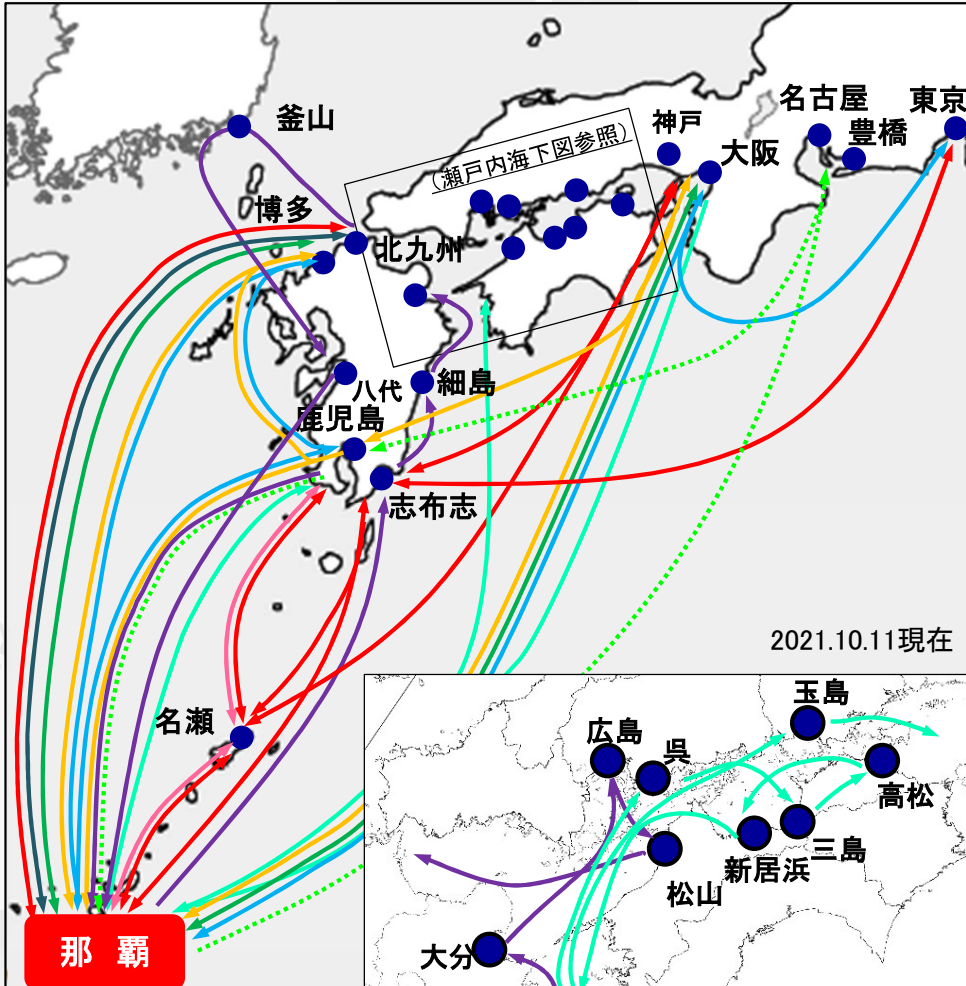
※所要時間は、那覇港発～最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む

那覇港の定期・不定期航路(県外)

・県外は、東京、名古屋、大阪、神戸、名古屋、博多、鹿児島等を結ぶRORO船、一般貨物船等が就航（20航路）。

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※()は不定期	船名 ※青色は旅客も対応	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日							船社
							月	火	水	木	金	土	日	
東京	那覇—大阪—東京—大阪—那覇	しゅり	RORO船	1/週	新港4・7	85H								近海郵船
	那覇—中城—大阪—東京—大阪—那覇	にらいかないII	RORO船	1/週	新港5・6	64H								琉球海運
	那覇—本郷—大阪—東京—大阪—那覇	しゅれいII	RORO船	1/週	新港6・7	63H								丸三海運
	那覇—志布志—東京—(名古屋)—志布志—那覇	琉球エキスプレス5	RORO船	3/2週	新港5・7	45H								マルエーフェリー
名古屋	那覇—名古屋—豊橋—鹿児島—那覇(不定期)	ふがく丸	自動車運搬船	1/4日	新港5・6・7	36H								フジトランスコーポレーション
	那覇—大阪—那覇	うりずんNEXT	RORO船	1/週	浦添3	38.5H								鹿児島荷役海陸運輸
	那覇—大阪—鹿児島—那覇	うりずん21	RORO船	1/週	浦添1・2	38H								丸三海運
	那覇—大阪—那覇(不定期)	海風	一般貨物船	3/2週	浦添7	40H								丸三海運
		島風	一般貨物船	3/2週	浦添7	40H								大阪旭海運
		第十五旭丸	一般貨物船	1/週	新港3	53H								南日本汽船
	那覇—玉島(岡山)—大阪—那覇	りゅうなんIII	一般貨物船	1/週	浦添3	41.5H								丸三海運
	那覇—伊予三島—神戸—大阪—那覇(不定期)	28盛山丸	一般貨物船	1/週	浦添6	88H								丸三海運
	那覇—志布志—大阪—志布志—名瀬—那覇	琉球エキスプレス6	RORO船	1/週	新港5・7	41H								マルエーフェリー
	神戸	那覇—名瀬—志布志—大阪—神戸—大阪—志布志—那覇	琉球エキスプレス2	RORO船	1/週	新港5・7	42.5H							
瀬戸内		那覇—呉(広島)—三島(愛媛)—高松(香川)—新居浜(愛媛)—那覇	りゅうなん5	一般貨物船	1/週	浦添3	93H							
	那覇—[台中—高雄—基隆]—那覇—志布志—細島—大分—広島—松山—門司—[釜山]—八代—那覇—[基隆—台中—高雄]	REFLECTION他	フルコン	2/週	新港9	2D								愛媛オーシャン・ライン
北九州	那覇—響<北九州>—那覇	琉球エキスプレス2	RORO船	1/週	新港5・7	27H								マルエーフェリー
		琉球エキスプレス6	RORO船	1/週	新港5・7	28.5H								南西海運
		よね丸	一般貨物船	1/週	新港1・3	39.5H								琉球海運
博多	那覇—博多—那覇	ちゅらしま	RORO船	2/週	新港6・7	24.5H								琉球海運
		あやはし	RORO船	1/週	新港6・7	26H								鹿児島荷役海陸運輸
		うりずん	一般貨物船	1/週	浦添1・2	27H								南日本汽船
		りゅうせい	一般貨物船	1/週	浦添3	41H								丸三海運
		りゅうなん	一般貨物船	2/週	浦添2・3	29H								丸三海運
		みーかじ(不定期)	一般貨物船	3/2週	浦添8	64.5H								琉球海運
		なは2(不定期)	一般貨物船	3/2週	浦添8	64.5H								琉球海運
那覇—中城—博多—那覇	あやはし	RORO船	1/週	新港6・7	32H								琉球海運	
那覇—鹿児島—博多—那覇	わかなつ	RORO船	1/週	新港6・7	39H								琉球海運	
鹿児島	那覇—鹿児島—那覇	かりゆし	RORO船	2/週	新港4・6・7	38H								鹿児島荷役海陸運輸
		うりずんNEXT	RORO船	1/週	浦添3	15H								南日本汽船
		うりずん21	RORO船	1/週	浦添3	17H								琉球海運
		りゅうなんII	一般貨物船	1/週	浦添5	5D								丸三海運
	那覇—博多—鹿児島—那覇	みやらびII	RORO船	1/週	新港7	45H								丸三海運
	那覇—本郷—与論—和泊—亀徳—名瀬—鹿児島—名瀬—亀徳—和泊—与論—本郷—那覇	フェリーあけぼの	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								マルエーフェリー
		フェリー波之上	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								丸三海運
		フィンコーラルプラス	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								マルックスライン
	フィンコーラル8	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								マルックスライン	

- ⇄ 琉球海運 ※近海郵船共同運航含む
- ⇄ マルエーフェリー
- ⇄ マリックスライン
- ⇄ 南日本汽船
- ⇄ 南西海運
- ⇄ 鹿児島荷役海陸運輸 ※大阪旭海運との共同運航含む
- ⇄ 丸三海運
- ⇄ 愛媛オーシャンライン
- ⇄ フジトランスコーポレーション



※所要時間は、那覇港発～最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む

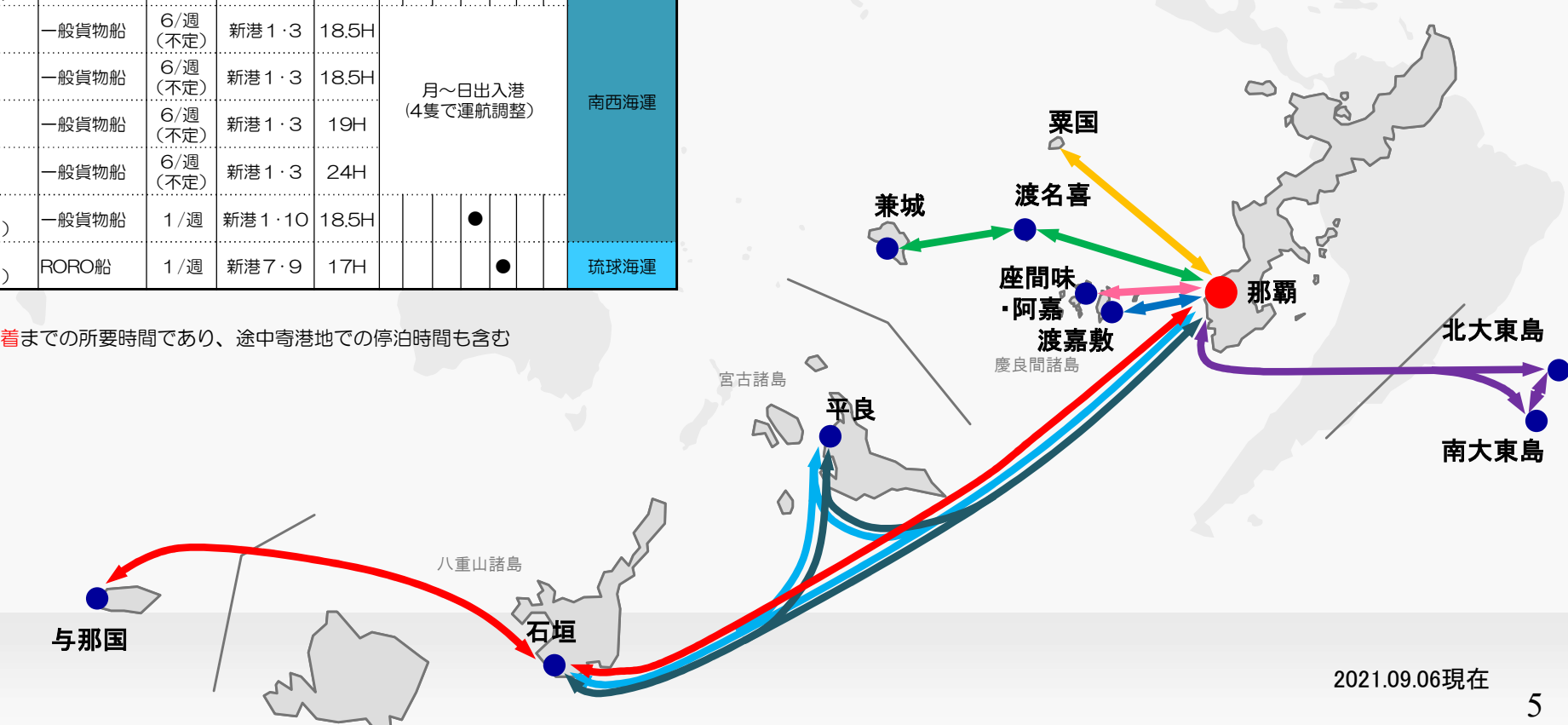
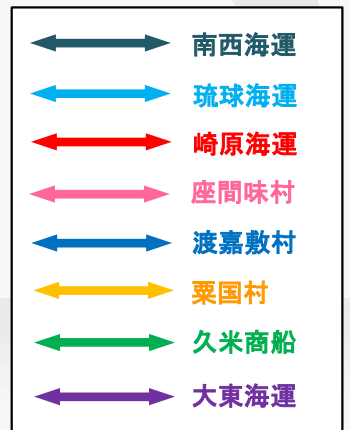
那覇港の定期航路(県内)

・県内は、先島を結ぶRORO船・一般貨物船(5航路)、周辺離島を結ぶフェリー・高速船(5航路)が就航(計10航路)

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※○は不定港	船名 ※青字は旅客も対応	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日							船社		
							月	火	水	木	金	土	日			
先島	那覇-石垣-那覇	陽光丸	一般貨物船	1/週	新港1	19H					●				崎原海運	
	那覇-石垣-那覇	第2優昭丸	一般貨物船	2/週	新港4・6	20H		●						●	琉球海運	
	那覇-石垣-与那国-那覇	陽光丸	一般貨物船	1/週	新港1	39H	●								崎原海運	
	那覇-平良-那覇	第2優昭丸	一般貨物船	1/週	新港4・6	15H					●				琉球海運	
	先島	那覇-平良-石垣-那覇	わかなつ	RORO船	1/週	新港6・7	18H	●								琉球海運
			かりゆし	RORO船	1/週	新港4・6・7	18H			●						琉球海運
			第2優昭丸	一般貨物船	2/週	新港4・6	22H					●			●	琉球海運
			せつ丸 (※国外航路あり)	一般貨物船	1/週	新港1・10	18.5H	●								南西海運
			よね丸	一般貨物船	6/週(不定)	新港1・3	18.5H									南西海運
			なんせい丸	一般貨物船	6/週(不定)	新港1・3	18.5H									南西海運
			ちよ丸	一般貨物船	6/週(不定)	新港1・3	19H									南西海運
	はりみず	一般貨物船	6/週(不定)	新港1・3	24H									南西海運		
	先島	那覇-平良-石垣	せつ丸 (※国外航路あり)	一般貨物船	1/週	新港1・10	18.5H					●				南西海運
			みやらびII (※国外航路あり)	RORO船	1/週	新港7・9	17H								●	琉球海運

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※()は不定港	船名 ※青字は旅客も対応	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日	船社
那覇-渡嘉敷-那覇	フェリー-とかしき マリンドライナー-とかしき	フェリー 高速船	1/日 2/日	泊5 泊7	1H 35M	渡嘉敷村		
那覇-粟国-那覇	ニューフェリー-あぐに	フェリー	1/日	泊3	2H	粟国村		
那覇-渡名喜-兼城<久米島>-渡名喜-那覇	フェリー-琉球 フェリー-海邦	フェリー フェリー	1/日 1/日	泊2 泊2	4H 4H	久米商船		
那覇-北大東島・南大東島-那覇	だいとう	貨客船	6/月	泊1	16.5H	不定	大東海運	

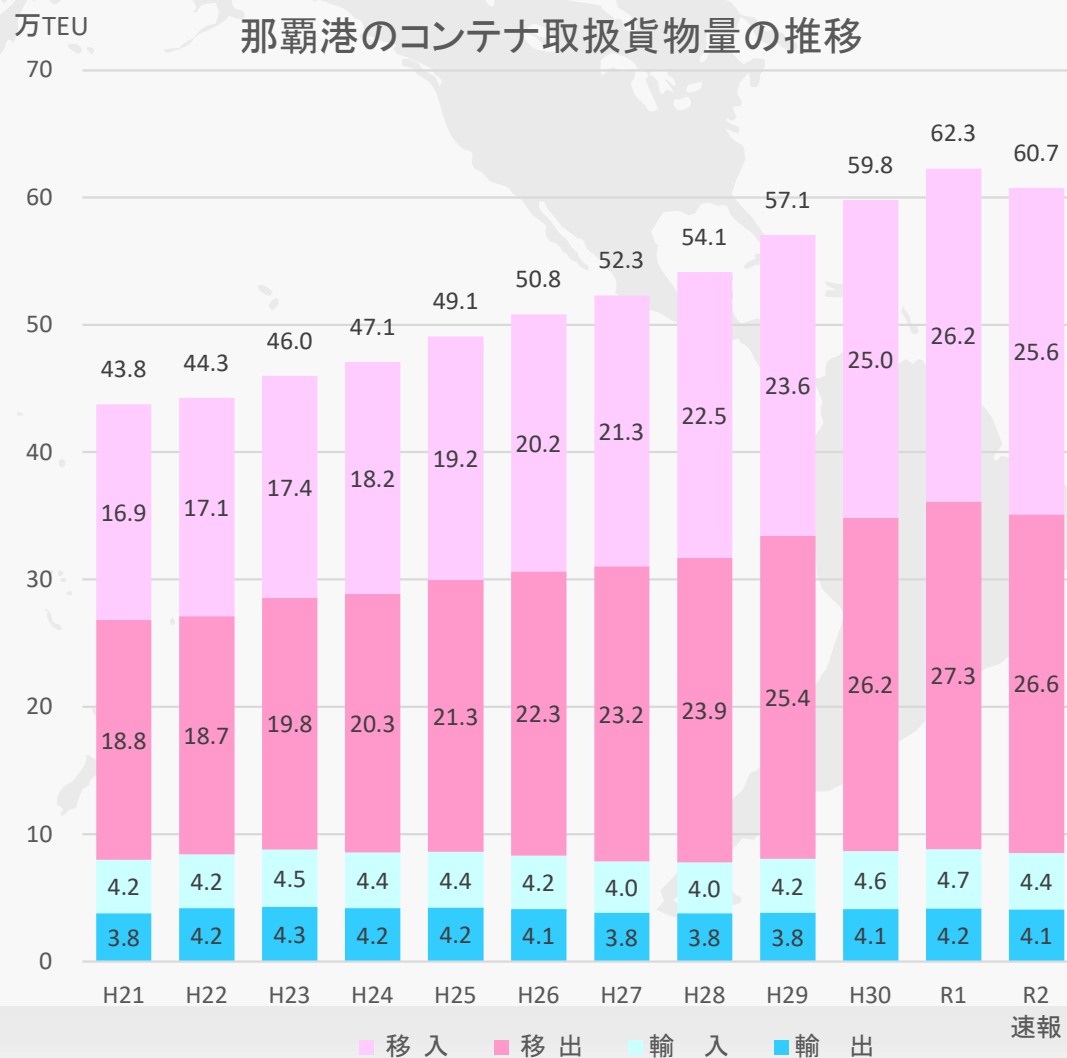
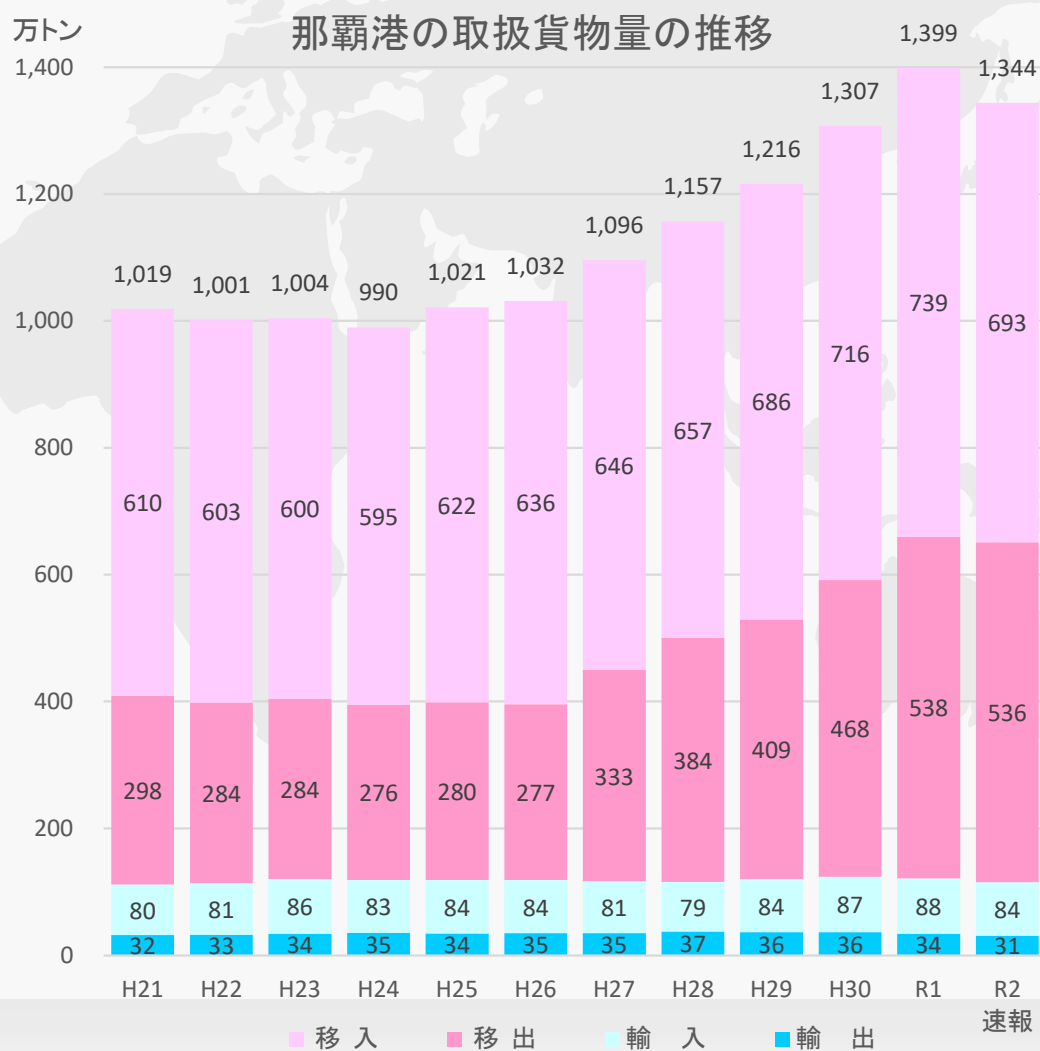
※所要時間は、那覇港発～最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む



2021.09.06現在

那覇港取扱貨物量の推移

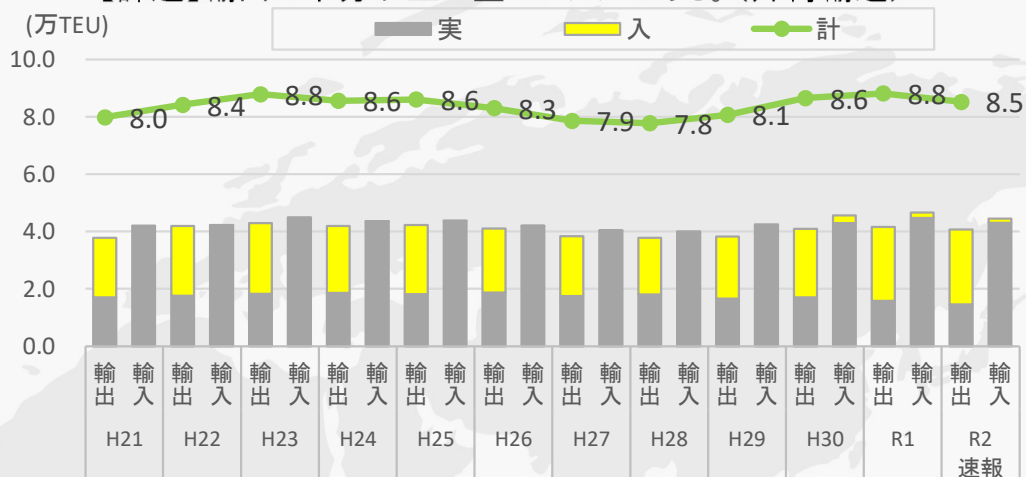
- ・那覇港の総取扱貨物量は、平成24年から令和元年までは増加を続け、令和2年は1,344万トン記録。
※平成27年以降の内貿貨物量(特に移出)の伸びが顕著。
- ・内貿コンテナ取扱量は522,195TEU、外貿コンテナ取扱量は85,178TEU。
- ・コンテナ取扱貨物量も令和元年まで増加を続け、令和2年は60.7万TEUを記録。



内外貿取扱コンテナ貨物量の推移

外貿コンテナ貨物実入・空別貨物量の推移

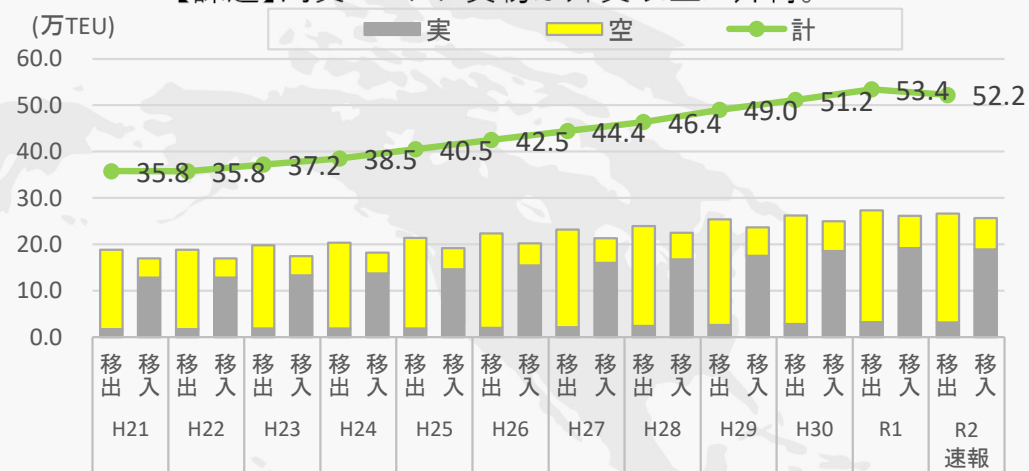
【課題】輸出の半分以上は空コンテナである。(片荷輸送)



年	輸出入別	実	空	外貿コンテナ計
H21	輸出	17,020	20,712	79,797
	輸入	42,065	0	
H22	輸出	17,564	24,341	84,153
	輸入	42,126	122	
H23	輸出	18,302	24,600	87,849
	輸入	44,947	0	
H24	輸出	18,594	23,342	85,560
	輸入	43,521	103	
H25	輸出	18,115	24,097	85,970
	輸入	43,610	148	
H26	輸出	18,717	22,252	82,996
	輸入	41,916	112	
H27	輸出	17,484	20,884	78,605
	輸入	40,191	46	
H28	輸出	18,039	19,730	77,747
	輸入	39,218	760	
H29	輸出	16,568	21,649	80,638
	輸入	41,635	786	
H30	輸出	17,037	23,917	86,494
	輸入	42,928	2,613	
R1	輸出	15,764	25,763	88,126
	輸入	44,685	1,915	
R2 速報	輸出	14,596	26,125	85,178
	輸入	43,028	1,429	

内貿コンテナ貨物実入・空別貨物量の推移

【課題】内貿コンテナ貨物は外貿以上に片荷。



年	移出入別	実	空	内貿コンテナ計
H21	移出	17,039	171,294	357,751
	移入	127,905	41,513	
H22	移出	17,039	171,294	357,615
	移入	127,905	41,377	
H23	移出	18,063	179,781	372,085
	移入	132,608	41,633	
H24	移出	18,567	184,546	385,147
	移入	136,960	45,074	
H25	移出	18,598	194,876	404,974
	移入	146,043	45,458	
H26	移出	19,570	203,633	425,200
	移入	154,401	47,596	
H27	移出	21,207	210,484	444,399
	移入	160,148	52,561	
H28	移出	23,690	215,531	463,723
	移入	167,239	57,263	
H29	移出	25,958	227,579	489,944
	移入	175,192	61,215	
H30	移出	28,142	233,621	511,527
	移入	185,570	64,194	
R1	移出	32,014	240,979	534,494
	移入	191,802	69,700	
R2 速報	移出	31,723	234,263	522,195
	移入	188,557	67,652	

注1)表中の単位:TEU 注2)平成21年10月にANAハブ開始

台湾TIPCとのパートナーシップ港に関する 合意書(MOU)の締結

平成27年4月21日に台湾高雄市において、台湾の主要港(高雄港、基隆港等)を管理運営する台湾港務株式会社(TIPC)と那覇港管理組合との間で、物流及び人流に関する交流を促進させ、相互理解と長期的な提携関係強化を図るため「パートナーシップ港に関する合意書(MOU)」を締結しました。

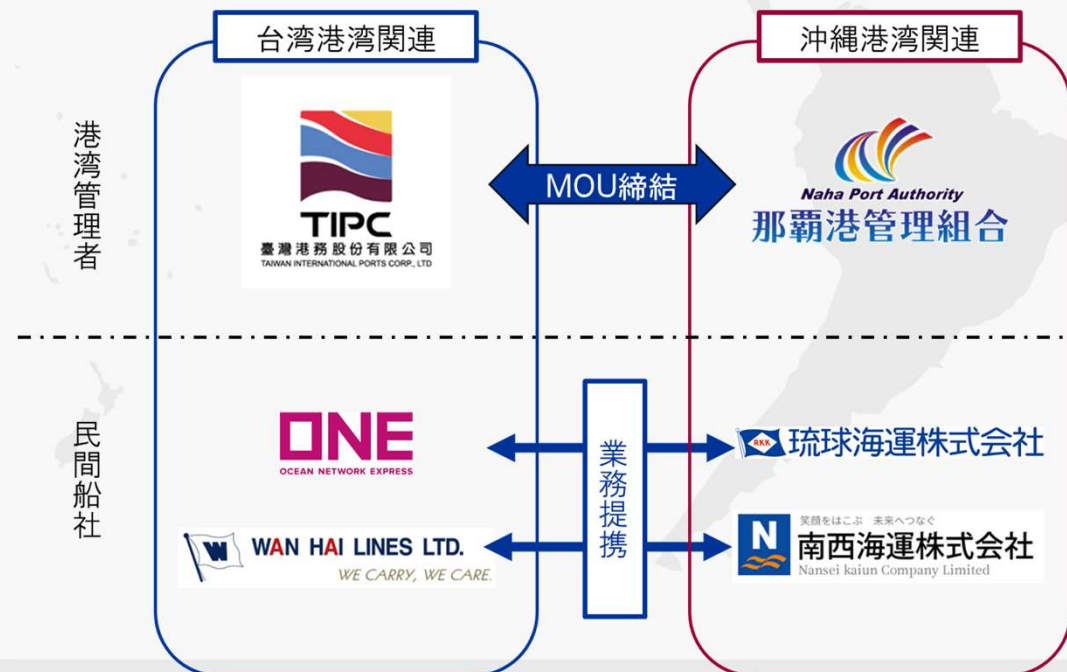
【MOU締結の合意内容】

1. 便利で良質な人流、物流サービスの提供に共同で努める。
2. 両港湾間における物流サービス等の向上に取り組む。
3. 海運に関する情報交流の強化、共有に取り組む。
4. 人員の交流と人材育成に努める。
5. 地場産業等の交流や提携を促進させる

■台湾港務株式会社(TIPC: Taiwan International Ports Corporation)

- ①TIPCは、2012年3月1日に設立された台湾政府が全額出資する港湾運営会社である。
- ②設立以前は主要港湾に行政機関として港務局が置かれ、港湾運営の他、港湾業務行政・航路行政など複数の業務を担当してきた。この業務のうち、港湾運営についてはTIPCが行うこととなり国際港7港(高雄港、台北港、基隆港、他4港)と国内港2港を統括管理している。

沖縄・台湾港湾関連の連携イメージ



貨物増大の取組（那覇港の課題解決に向けて）

那覇港における取扱貨物量増大の取組

那覇港輸出貨物増大促進事業（平成25年度～）

【船社対象の実証実験】

那覇港に新規寄港する船社を支援する「実証実験」により、新規航路開設・定着への課題や方策の検討を行う。（平成29～令和3年度）



ソフト事業

【輸出荷主対象の実証実験】

那覇港から輸出する荷主等を支援する「社会実験」により、輸送コストやリードタイム等を検証し、物流コストの低減や輸送システムの改善等の検討を行う。



貨物量の増加
新規航路の定着

相乗効果

ハード事業

○総合物流センター整備事業

貨物の増加、物流の効率化

○ガントリークレーン等整備事業

物流コストの低減、雇用の創出等

将来(長期)

国際物流拠点の実現（貨物の増大、物流の効率化、競争力強化）

令和3年度 事業スキームの概要

那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象)

- 「那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象)」とは、実証実験として、輸出貨物などを対象に補助を行うとともに、コストやリードタイム等を検証し、物流コストの低減や輸送システムの改善等の検討を行うものです。
- 輸出貨物全体に対する「全数への補助」と、前年度比で増加した貨物に対する「増加分への上乗せ補助」を実施しています。
- 沖縄からの輸出が期待される中古車及び飲料食料品については別枠で整理し重点的に支援しています。

I. 基本メニュー (中古車、飲料食料品を除く)

全数への補助

【上限額】 混載貨物:10万円
コンテナ単位と自走貨物の合計:30万円

コンテナ貨物・小口混載貨物

令和3年度に輸出した貨物量(コンテナ及びM³単位)に対して補助します。

R3年度



増加分への上乗せ補助

【上限額】 混載貨物:15万円
コンテナ単位と自走貨物の合計:50万円

コンテナ貨物

コンテナ単位の増加分に対して補助します。

R2年度 → R3年度



小口混載貨物

M³単位の増加分に対して補助します。

R2年度 → R3年度



II. 中古車メニュー

全数への補助

【上限額】全数と増加分
合計:100万円

令和3年度に輸出した台数に対して補助します。



増加分への上乗せ補助

台数単位の増加分に対して補助します。



台湾貨物に対する上乗せ補助

台湾向け、台湾経由の輸出貨物には上乗せで補助します。



III. 飲料食料品メニュー

全数への補助

【上限額】混載貨物:25万円
コンテナ貨物:80万円

飲料及び食料品 (コンテナ・小口混載)

令和3年度に輸出した貨物量(コンテナ及びM³単位)に対して補助します。

令和3年度



香港貨物に対する上乗せ補助

香港着の飲料・食料品貨物には上乗せで補助します。(経由地は問いません)



令和3年度補助メニュー

那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象)

I. 基本メニュー

【分類:A】一般貨物(「B中古車」及び「C飲料食料品」を除く)※

全数への補助

【1申請者または1委任者当たりの上限額】
コンテナ単位と自走貨物の合計:30万円
混載貨物:10万円

概要	貨物種類	補助金単価(/個、/M3)		
		種別	ドライ	リーファー
那覇港から輸出される一般貨物	コンテナ貨物	20ft	2,000円	6,000円
		40ft	3,000円	9,000円
		10ft・12ft	1,400円	4,200円
		混載/M3	400円	1,200円
	自走貨物	/M3	60円	—

増加分への上乗せ補助

【1申請者または1委任者当たりの上限額】
コンテナ単位と自走貨物の合計:50万円
混載貨物:15万円

概要	貨物種類	補助金単価(/個、/M3)		
		種別	ドライ	リーファー
前年比で増加した貨物	コンテナ貨物	20ft	10,000円	30,000円
		40ft	15,000円	45,000円
		10ft・12ft	7,000円	21,000円
	混載/M3	2,000円	6,000円	
	自走貨物	/M3	300円	—
台湾向け又は台湾でトランシップする貨物	コンテナ貨物	20ft	15,000円	45,000円
		40ft	22,500円	67,500円
		10ft・12ft	10,500円	31,500円
	混載/M3	3,000円	9,000円	
	自走貨物	/M3	450円	—

II. 中古車メニュー

【分類:B】中古車※

全数への補助

【1申請者または1委任者当たりの上限額】
全数への補助と増加分への上乗せ補助
合計:100万円

概要	貨物種類	補助金単価(/台)
①今後、継続して那覇港からの輸出が見込める中古車(トラックを除く)	コンテナ又は自走貨物	20,000円

増加分への上乗せ補助

概要	貨物種類	補助金単価(/台)
①前年比で増加した中古車(トラックを除く、また下記の②貨物を除く)	コンテナ又は自走貨物	10,000円
②前年比で増加した中古車(トラックを除く)かつ台湾向け又は台湾でトランシップする貨物		14,000円

【※適応条件】定期航路(コンテナ船、RORO船)により輸出される中古車が対象。自動車運搬船(PCC)等の不定期航路で輸出される中古車は対象外とする。

III. 飲料食料品メニュー

【分類:C】飲料食料品※

全数への補助

【1申請者または1委任者当たりの上限額】
コンテナ単位と自走貨物の合計:80万円
混載貨物:25万円

概要	貨物種類	補助金単価(/個、/M3)		
		種別	ドライ	リーファー
①(下記の②及び③貨物を除く)	コンテナ貨物	20ft	15,000円	45,000円
		40ft	22,500円	67,500円
		10ft・12ft	10,500円	31,500円
		混載	3,000円	9,000円
②台湾向け又は台湾でトランシップする貨物(下記の③貨物を除く)	コンテナ貨物	20ft	18,000円	54,000円
		40ft	27,000円	81,000円
		10ft・12ft	12,600円	37,800円
		混載	3,600円	10,800円
③香港着貨物	コンテナ貨物	20ft	21,000円	63,000円
		40ft	31,500円	94,500円
		10ft・12ft	14,700円	44,100円
		混載	4,200円	12,600円

【※適用条件】申請者単位で昨年輸出実績がコンテナ貨物で年間50TEU未満(ドライ・リーファー合計)かつ、混載貨物で年間250M3未満(ドライ・リーファー合計)であること。
また、当該メニューへの適用判断については、必要に応じて事務局において輸出許可通知書の統計品目番号を確認して判断する。

【※全メニュー共通留意事項】補助金額は当該事業の予算の範囲内において、事務局において決定する。補助金交付の対象は、交付決定通知以降の期間における輸出貨物とする。

令和3年度 事業スキームの概要

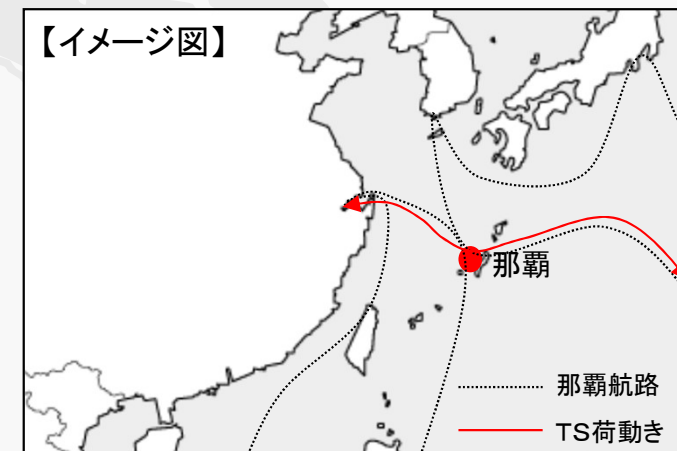
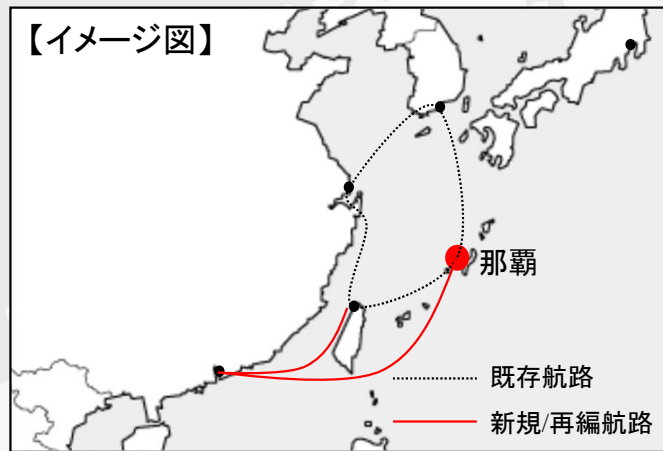
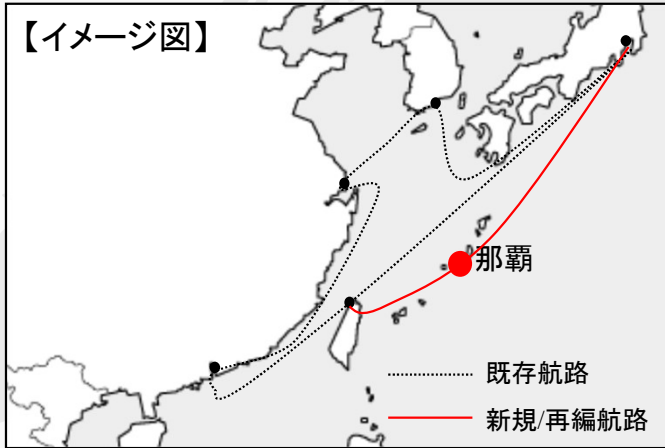
那覇港輸出貨物増大促進事業(船社対象)

「那覇港輸出貨物増大促進事業(船社対象)」は、実証実験として那覇港における新規の国際航路の開設及び国際トランシップ貨物の取扱を行う外航船社に対し、その費用の一部を支援することにより、那覇港における航路の拡充と国際コンテナ貨物の増大を実現することを目的としています。

1-1. 那覇港への新規寄港による国際航路の開設

1-2. 那覇港に寄港している航路の再編による那覇港と新たな寄港地を直接結ぶ国際航路の開設

2. 国際TSコンテナ貨物の取扱への支援



【支援内容】

支援対象		
那覇港への新規寄港による国際航路の開設		
支援実施者	支援内容	上限等
那覇港管理組合	・タグ、パイロット費用 ・綱取り/放し費用 ・燃料費 等	1寄港当たり最大 150万円
NICTI	・岸壁使用料の免除 ・1寄港当たり最大 20万円	

【参考】想定される航路としては、現状、国外港から外貨物として本土港へ輸送され、本土港から内貨物として那覇港へ輸送される貨物について、国外港から外貨物として直接那覇港へ輸送できる航路などであるが、これに限らない。

【支援内容】

支援対象		
那覇港に寄港している航路の再編により、他港を經由せずに那覇港と新たな寄港地を直接結ぶ国際航路の開設		
支援実施者	支援内容	上限等
那覇港管理組合	・タグ、パイロット費用 ・綱取り/放し費用 ・燃料費 等	1寄港当たり最大 75万円
NICTI	・岸壁使用料の免除	

【参考】想定される航路としては、現状、那覇港と航路ネットワークがない国外港について、既存航路再編により、新たに他港を經由せずに那覇港から直接輸送できる航路であるが、これに限らない。

【支援内容】

支援対象		
異なる船舶間における国際トランシップ貨物の取扱		
支援実施者	支援内容	上限等
那覇港管理組合	・トランシップのコンテナ貨物1本あたり 10,000円	1寄港当たり最大 50万円
NICTI	・NICTI内にてトランシップされるコンテナ貨物1TEUあたり 最大 1万円	1申請者あたり最大 100万円

【参考】トランシップ貨物は、主にガントリークレーン等で船舶からヤードへの「揚げ」、ヤードでの「保管」、およびヤードから船舶への「積み」の作業が必要となる。これらの費用についてコンテナ貨物量(本数)に応じて支援を行う。

令和3年度 那覇国際コンテナターミナル(株)の支援制度概要

那覇国際コンテナターミナル(株)(NICTI)では、令和3年度から新たに、荷主・物流事業者向けの支援制度を開始。
既存の船社・代理店向けメニューについても一部内容を変更し、継続する方針で那覇港での取扱貨物の増加に取り組んでいる。

荷主・物流事業者向け

① トランシップコンテナの誘致

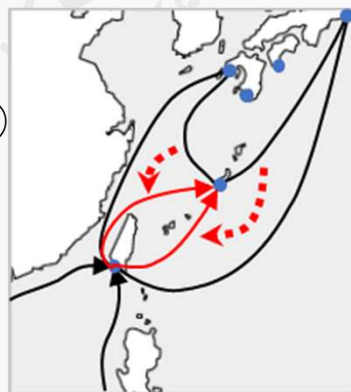
NICTI 内にてトランシップされる国際コンテナ貨物に対して支援

【支援額】：**最大5万円/TEU**(空コンテナ含む)
(※条件:最大100万円/申請者)

② NICTI への輸出入転換

県外港で輸出または輸入されている沖縄発着コンテナ貨物を、NICTI での輸出入に転換した際に支援

【支援額】：**最大5千円/TEU**
(※条件:最大50万円/申請者)



例: 移入貨物の輸入への転換

③ 新規輸出・輸入貨物の創出

新たにNICTI で輸出または輸入されるコンテナ貨物に対して支援

【支援額】：**最大1万円/TEU**
(※条件:最大100万円/申請者)

船社・代理店向け

① 新規航路の開設

I. 那覇港において新たに国際コンテナ航路を開設、また既存航路の改編によって、海外港との航路を新たに開設した船社または代理店に対して支援

【支援内容】：**岸壁使用料の免除**

II. 那覇港において直航サービスが設けられていない海外港との航路を新たに開設した船社または代理店に対して支援

【支援内容】：**最大20万円/寄港**

(※条件:年間12回以上の寄港)

② 本船の大型化

既存の国際コンテナ航路へ投入する本船を大型化する船社または代理店に対して支援

【支援内容】：**本船トン数増加分の岸壁使用料の免除**

③ 外貿コンテナの取扱数の増加

既存、新規を問わず、国際コンテナ航路の前年度比実入りコンテナ取扱量の増加分に対して、支援

【支援額】：**最大500円/TEU**

(※条件:既存は、前年度比10%増加分まで、新規は、当年度取扱数の10%分までが対象)

④ トランシップコンテナの誘致(NVOCC 業者も対象)

NICTI 内にてトランシップされる国際コンテナ貨物に対して支援

【支援額】：**最大1万円/TEU**(空コンテナ含む)

(※条件:最大100万円/申請者)

国際コンテナターミナルの施設整備事業の概要

ターミナル諸元	No.9	No.10
供用開始	平成9年8月	平成18年1月
岸壁延長	300m	350m
奥行き	350m	350m
計画水深(実水深)	13m (14m)	15m (15m)
面積	210,000㎡	

- 総合物流センター【第Ⅰ期】
基本設計：3階建、専用区画面積約3.2ha)
- 本体工事平成30年度完成、令和元年5月開業

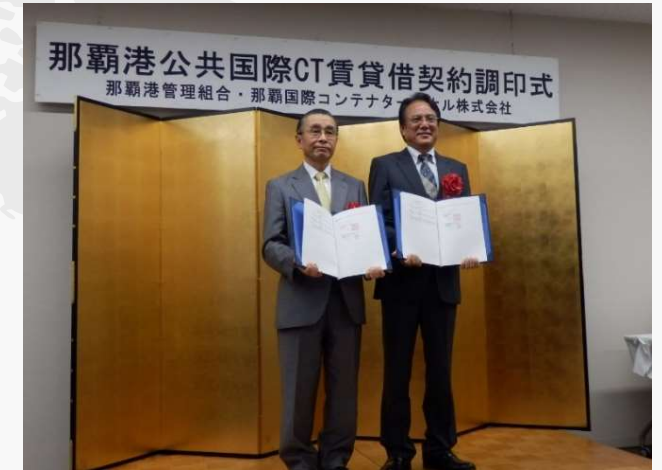


- No.10
- ガントリークレーン整備事業（3号機、4号機）**
- ガントリークレーン4号機
(オンデッキ6段×18列対応)
免震装置付
○平成27年5月供用開始
 - ガントリークレーン3号機
(オンデッキ6段×18列対応)
免震装置付
○平成26年7月供用開始



那覇港公共国際コンテナターミナル運営事業

平成27年12月、那覇港管理組合は、国内外に幅広いネットワークを持つ国内有数の総合物流企業である三井倉庫株式会社が中核企業として参入した新NICTIと、平成28年1月から10年間の賃貸借契約を更新締結しました。



那覇港公共国際CT賃貸借契約調印式の様子 (H27年12月22日)
左: 田原口 誠 NICTI 代表取締役社長
右: 金城 勉 那覇港管理組合 常勤副管理者

新NICTIとの賃貸借契約の概要

- 賃借人 : 那覇国際コンテナターミナル株式会社 (NICTI : Naha International Container Terminal Incorporation)
中核企業 : 三井倉庫株式会社
- 契約期間 : 平成28年1月1日～ 令和7年12月31日 (10年間)

○ 那覇港公共国際コンテナターミナル運営事業

(事業の概要)

沖縄振興計画に位置づけられた「民間主導による自立経済の構築」を支援するため、那覇港新港ふ頭地区の9号及び10号ターミナルを、一体的に運営可能な能力を有する民間企業に長期貸付け、事業者の創意工夫による効率的な運営により、国際競争力の向上を図り、国際海上輸送コストの低減や航路誘致による産業立地、雇用拡大を実現することを目的としたプロジェクトです。

(事業の目標)

- ◆ 那覇港公共国際コンテナターミナルの整備促進及び利用効率の向上を図り、国際競争力を高める。
- ◆ 那覇港公共国際コンテナターミナルの国際コンテナ貨物量の増大、海上運賃の低減を図る。

那覇港総合物流センター整備事業

○整備理念

那覇港総合物流センターは、本県の実生活・産業関連貨物の大部分を占める港湾貨物を取り扱う那覇港において、集貨・創貨を促進することにより取扱貨物の増加を目指し、物流の高度化を図るとともに、流通加工等の新たな価値を生み出す付加価値型産業の集積を図る総合物流施設として整備するものである。

□那覇港総合物流センターの敷地は、那覇国際コンテナターミナルと国内貨物の取り扱い岸壁の間に位置していることから、国際物流機能の集積を促進する総合物流センターの建設に適した場所である。



国際コンテナターミナル

第Ⅰ期建設地【約2.6ha】
令和元年5月開業

第Ⅱ期予定地【約3.0ha】

第Ⅲ期予定地【約2.2ha】

那覇港総合物流センター整備概要(第Ⅰ期)

○整備主体: 那覇港管理組合

○事業期間: 平成25年度～平成30年度

平成26年度 : 実施設計

平成27～30年度: 建設工事

○施設概要 : 3階建、専有区画面積 約3.2ha
マルチテナント型

那覇港総合物流センター(第Ⅱ・Ⅲ期)
事業可能性調査中

国内貨物取扱岸壁

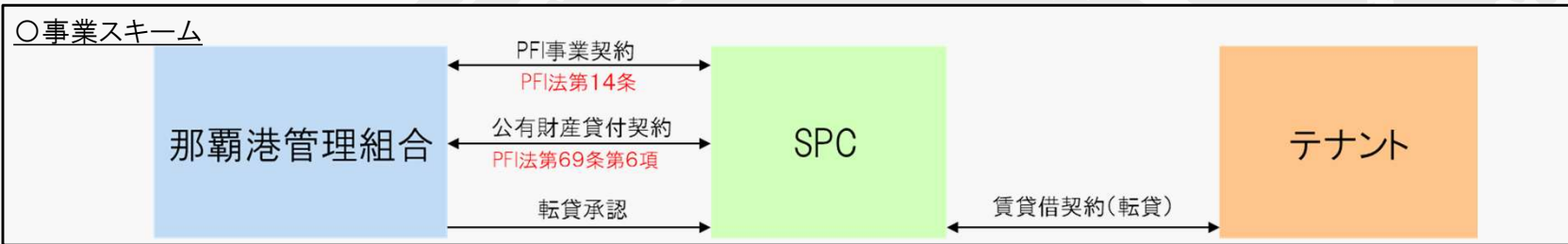
□那覇港と那覇空港を結ぶ「那覇うみそらトンネル」が開通したことでアクセスが向上しており、海上貨物と航空貨物とのSea and Airによる連携が進むと総合物流センターの需要は高まると予想される。



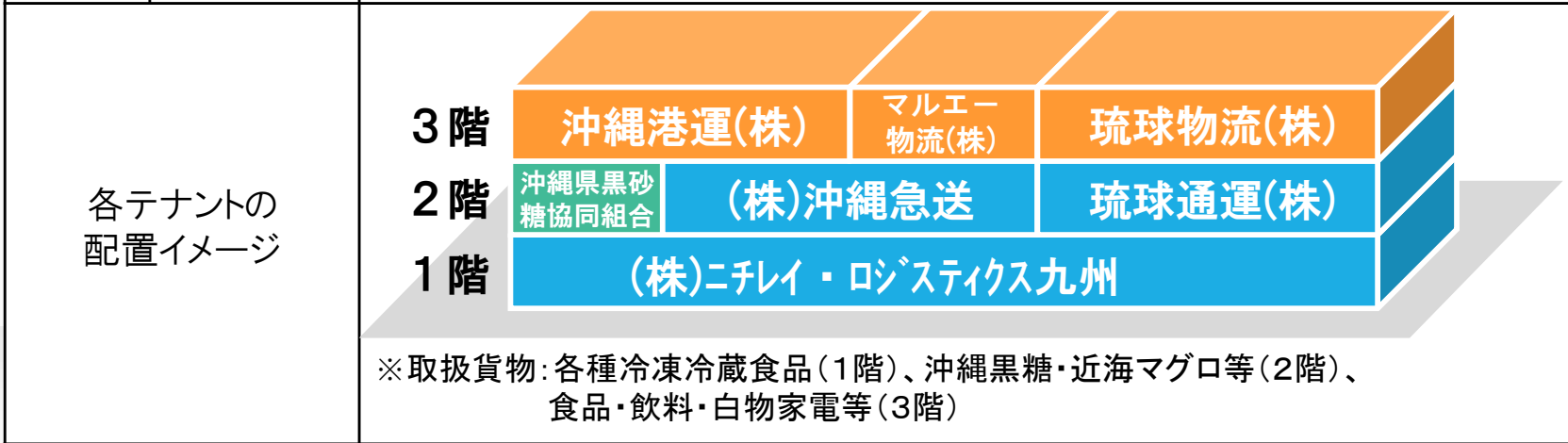
那覇港総合物流センター運営事業

那覇港総合物流センターの管理運営については、PFI法に基づく維持管理・運営型による事業スキームとなっており、那覇港管理組合は施設を所有したうえで、公有財産貸付契約に基づきSPCに貸し付けています。
各テナント※は保税蔵置場の許可を受けており、円滑な通関手続きや物流コストの低減、作業の効率化につながります。

※沖縄県黒砂糖協同組合及びマルエー物流(株)を除く



組成及び役割分担	代表企業 [1社]	琉球海運(株)	(株)那覇港総合物流センター (SPC)
	構成企業 [3社]	(株)ニチレイロジグループ本社 那覇地域貨物運送協同組合 (株)沖縄日本管財	
	協力企業 [8社]	沖縄港運(株)、(株)沖縄急送、沖縄県黒砂糖協同組合、琉球物流(株)、琉球通運(株)、マルエー物流(株)、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州、(株)日本プロパティ・ソリューションズ	



超低温庫



急速凍結庫



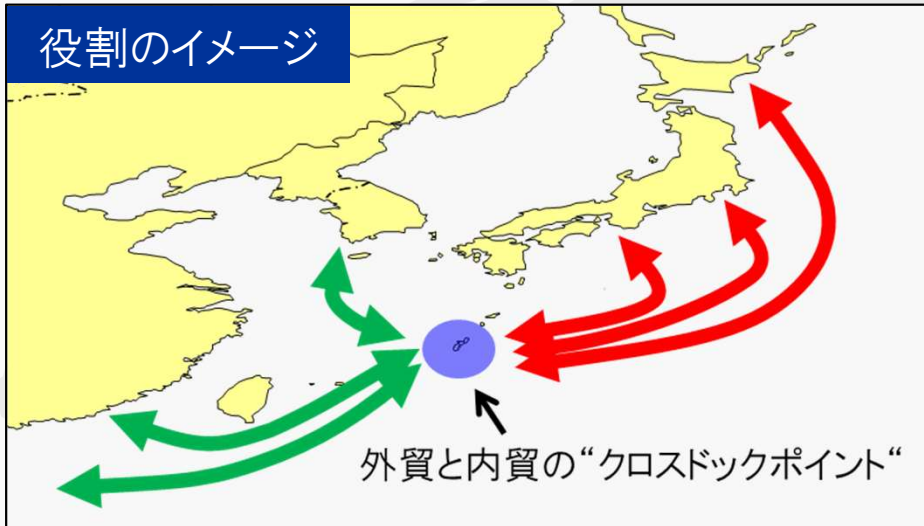
恒温恒湿庫

那覇港総合物流センターの役割と導入機能

那覇港総合物流センターの役割は、東アジアの中心に位置する那覇港の地理的特性を活かした輸出入貨物の取扱拠点を形成するとともに、沖縄県と本土各地の国内物流ネットワークとの連携を深めることで国内外物流の結節点(クロスドックポイント)を構築し、関連産業の視野が広い物流を通じて沖縄県経済の発展に貢献すること。

導入機能は、「物流の高度化」や「付加価値の高い貨物を創出する」機能が挙げられる。

役割のイメージ



導入機能

【①物流の高度化】⇒集貨促進

海外から製品等を輸入し、那覇港総合物流センターで保管や検査、仕分け、混載を行い本土各地へ移出あるいは県内小売店舗へ配送する等、物流を効率化させる。



集貨・創貨計画

集貨目標(10年目): 131,936トン

【集貨計画】

- ①県産品(青果物、黒糖)を集約し、輸出・移出。
- ②県内向け輸入貨物(白物家電、食品等)を集約し、効率的に配送。
- ③タイ・台湾発本土向け冷凍食品を、高雄港積み替えで本施設へ集約し、県外へ移出。
- ④海外から本土経由で輸入される貨物(冷凍食品、食品(缶詰))を、那覇港直接揚げとする。

【創貨計画】

創貨目標(10年目): 7,823トン

- ①県内青果物のパッキング・ラベル貼り等を行い、輸出・移出。
- ②インドネシア、米国、台湾からの輸入貨物(缶詰、食品)を本施設にて仕分け、ラベリング等を実施して県内向け配送。

【②付加価値の高い貨物を創出】⇒創貨

仕入れた原料等を輸入し流通加工(創貨)を行い本土各地へ移出あるいは世界各国へ輸出する。



流通加工における付加価値例:
原料・材料を大量に輸入、流通加工(小分け・ラベリング、検品)、仕向地毎に仕分け・梱包

那覇港と国際物流拠点産業集積地域の位置関係

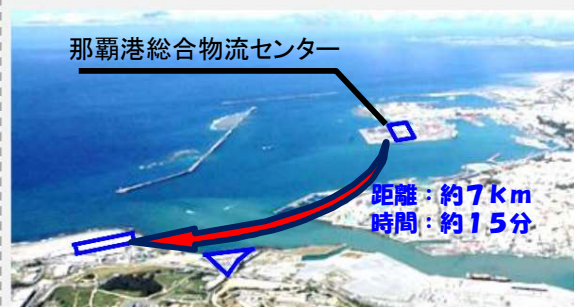
那覇港総合物流センターは、
「国際物流拠点産業集積地域」に含まれております。

当該地域では、税の優遇制度等を利用
することが可能です。

那覇港総合物流センターからの交通アクセス
⇒那覇空港 約7km 約15分
⇒うるま市旧特自貿 約30km 約45分

(参考)

旧:那覇地区・那覇空港地区・那覇港地区



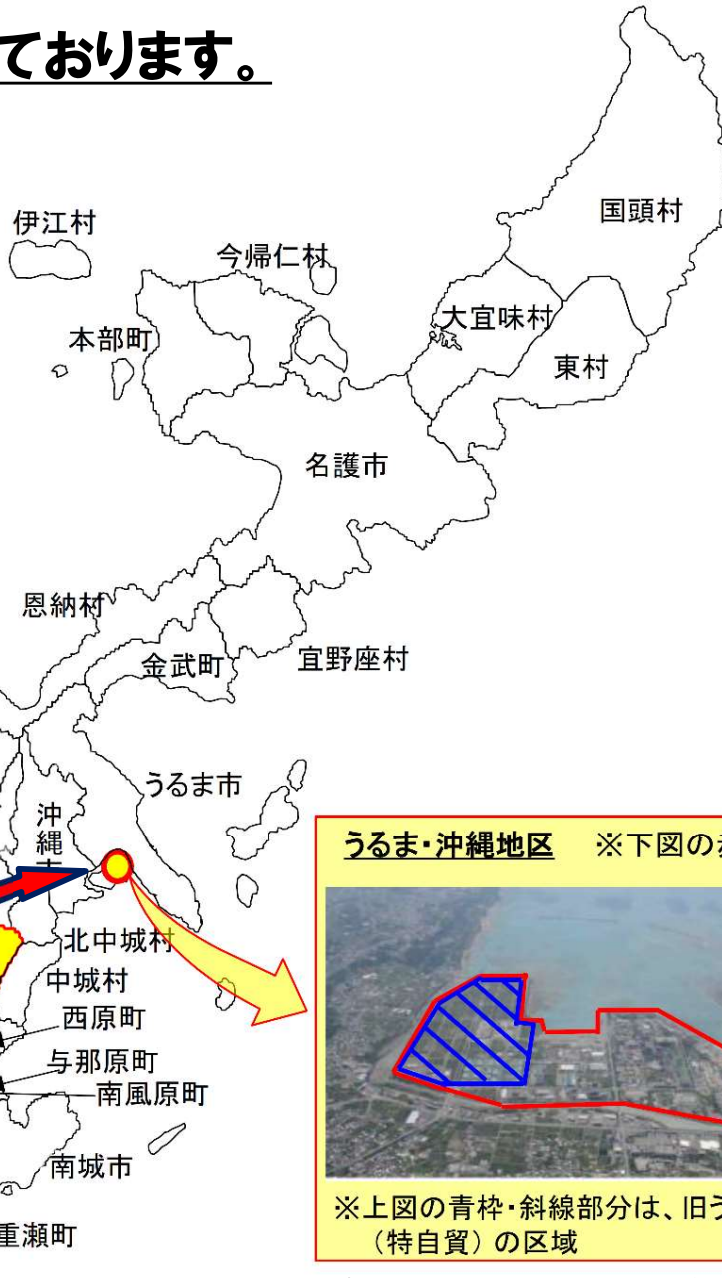
※旧3地区の区域(上図青枠内)は、新たに指定した那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満地区の区域に内包されている。

国際物流拠点産業集積地域は平成26年6月にエリアが拡大しました。

那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満地区

距離: 約30km
時間: 約45分

糸満市



うるま・沖縄地区 ※下図の赤枠内

